

働くとは何かを中学生といっしょに考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

今週の月曜日の6月2日に、東京都大田区の大森第六中学校にお伺いし、「働くとは何か」というテーマで働く意義について45分間の授業をさせていただきました。今日は、そのときのお話をさせていただきます。

2. まず、なぜ大森第六中学校に行くことになったのかということからお話します。経済団体の中に経済同友会というものがあります。私は、栃木県の経済同友会にも入っておりますが、東京の経済同友会にも入らせていただいています。東京の経済同友会の中には、経営者を学校に無料で派遣して必要な授業をさせていただくというプログラムが設けられています。そこには100名ぐらいの経営者が登録しており、私もその一人です。

3. 私が先週行かせていただいた大森第六中学校は、近くに千束池という池があって景色が非常に美しい所がありました。この中学校ではユネスコスクールをやっていました。私も開倫ユネスコ協会の会長をさせていただいていますが、ユネスコとは国際連合教育科学文化機関のことです。日本ユネスコ協会は、文部科学省と手を携えて、小学生・中学生・高校生にユネスコの精神を味わって世界の平和を考えてもらいたいということで、ユネスコスクールを熱心に広めています。

そのユネスコスクールの中で最も優秀な活動をしているのが、この大森第六中学校です。このような学校で授業をさせていただき、有難いと思います。

4. ユネスコスクールでは、「地球は屋根のない学校である。人と人・人と地球・人と自然とを繋ぐ学校、それから災害に立ち向かう学校をつくらう」ということで、持続・発展教育を一所懸命に行っています。持続・発展教育とは、将来にわたって持続可能な社会を構築する担い手を育む教育のことです。英語ではESD(Education for Sustainable Development)と言います。Educationは「教育」、forは「～のための」、Sustainable「持続可能な」、Developmentは「発展」という意味です。この将来にわたって持続可能な社会を構築する担い手を育む教育を、大森第六中学校ではユネスコスクールとして行っておられます。課題解決に繋がる新たな価値観や行動を生み出し、それによって持続可能な社会をつくっていくことを目指す学習や活動をしているのが、ユネスコスクールであり、大森第六中学校であります。栃木県でも足利市立山辺中学校をはじめとするいろいろな中学校でユネスコスクールをやっています。

5. 大森第六中学校には、今年の3月8日に文部科学大臣の政務官である上野通子さんが行かれ、有難いお話をなされたとお聞きしました。上野通子さんは、栃木県から選出された参議院議員で、文部科学大臣の政務官として大臣の横で日本の文部科学行政を司る非常に大事な仕事をなさっていらっしゃいます。その上野通子さんのお話が素晴らしかったので、もう一度お会いしてお話を伺いたいと、生徒さんたちも先生方もおっしゃっていました。このように、栃木県から出られた政治家の方が熱心に活動されているのは素晴らしいことであり、私たちの誇りでもあると思います。

6. 次に、私がこの中学校でお話した内容を紹介します。「働くとは何か」、つまり働く意義がテーマでしたので、働くときにはどのようなことが必要になるのかについてお話ししました。

働くとはお客様の問題を解決することであり、お客様の問題を解決してお客様のお役に立つことです。目の前にいるお客様は一人か二人ですが、同じような問題でお困りの方はたくさんいらっしゃいます。ですから、同じような仕事をする人が集まれば、お客様一人ひとりの役に立つことで最終的には社会の役に立つことができます。これをするのが仕事です。

さらによく考えてみると、すべての仕事には社会的な意味や社会的な使命があります。ですから、この仕事にはどのような社会的意味・使命があるのかを考えながら仕事をすると、よい仕事ができます。このような内容のお話をいたしました。

7. 栃木県でも同様と思いますが、中学校2年生は7月になると職場体験に出掛けます。これは、各職場で1週間ぐらい仕事を体験しながら世の中のことを知り、勉強にも役立てるというプログラムです。職場体験では、仕事をさせていただきながら、この仕事のお客様は誰なのかということを考えてもらいたいと思います。さらに、お客様は何に困っていて、それを解決するにはどのようにしたらよいかについても理解してもらいたいと思います。最終的には、その会社・その職場の社会的な意味や社会的な使命を考えてもらいたいと思います。例えば、電車の運転をする方にはお客様を目的地まで安全に運ぶという仕事の使命があります。コンビニでいろいろなものを売っている方には、おなかをすかせているお客様の空腹を満たすという仕事の使命があります。

8. このように、仕事には必ずお客様がいて、そのお客様の問題を解決することでお客様の役に立てます。また、お客様の一人ひとりの役に立つことで社会の役に立つことができます。ですから、それぞれの仕事の社会的な意味や社会的な使命を考えながら、仕事について考えてもらいたい。このような内容のお話をしたところ、大森第六中学校の生徒さんたちから「おもしろいお話だった」と言っていただき、よかったなと思います。

9. 放送をお聴きの皆さんも、身近にいるお子さんに何のために働くのか・働くとは何かについてお話をしていただければ有難いです。